

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第10号(20100312)

発行 竹田幸男

映像3団体の交流会を開催

2月28日、大阪東北部を拠点とする、寝屋川市映像協会、映像北大阪、そして我々寝屋川映像同好会の3団体が一堂に会しました。午後1時、寝屋川市



映像協会の例会会場である寝屋川市立総合センター4階視聴覚室へ集合、映像協会の例会を見学後、それぞれの代表作を映写、続いて懇談会に移り、それぞれの活動状況を中心に話し合いました。

映像3団体交流会にて

終了後、寝屋川市駅前の地下「坐・和民」へ移動、ここで各団体の会員が渾然一体となって一杯傾けながら映像を始め様々な話題を交換、再会を約して別れました。



3月例会にて

3月例会の開催

今月は3月20日のビデオ作品発表会直前の準備、4月始めの撮影会の準備、それに松愛会湘南東支部の由井隆久様からのお便りと作品の紹介と、盛りだくさんの話題がありました(本文参照)。

例会の窓

平成 2 2 年 3 月例会

日 時 平成 2 2 年 3 月 1 2 日
1 3 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0

場 所 寝屋川市民活動センター
(市民会館 4 F) 子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 谷 田淵 (9 名)
欠席者 竹下 (5 0 音別 敬称略)

例会次第 (今回の要約 竹嶋氏)

1 . 各会員の最近の活動状況・情報交換

竹下さんが入院中。

一日も早く元気を回復され、3月の作品発表会へのご出席と例会等一緒に活動が出来ますよう祈念しています。

松愛会湘南東支部の由井隆久様から、松愛会ホームページの寝屋川支部編に掲載している私達の「会報」を毎月見て頂いていて、記事が参考になった、ということで、私どもの例会が「和気あいあいとして楽しく、それでいて熱心な検討会の雰囲気強く感じられます。」との嬉しいお手紙をいただきました。

竹田会長から手紙の紹介があり、全員心温まる思いにふけりました。同封いただいた「松愛会湘南支部活動紹介DVD」を、送付いただいた、鎌倉名物の「鳩サブレ」を頂きながら視聴させていただきました。由井様、有難うございました。

2 . 報告・連絡・協議事項

先月 2 8 日の「映像北大阪」「寝屋川映像協会」との交流会の結果

- ・天野、新井、小笠原、竹田、谷の 5 名が参加
- ・お互いのクラブ代表の作品を見ることが出来、大変参考になった。
当会からは、谷さんの「アッヘン湖」、小笠原さんの「白昼夢」、天野さんの「花灯路」の 3 作品を紹介し、いずれも好評価だった。
北大阪の堀さんの映像ドキュメンタリー「ひまわり」には敬服した。
- ・その後の懇談会、終了後の懇親会もお互いに交流を深めて有意義であった。

3 月 2 0 日の第 4 回作品発表会について

- ・集合は松心会館に午前 8 : 3 0
- ・機材等の準備事項、当日の役割分担 (竹田会長作成のリストにて確認)

- ・ 前回来場者へのチラシプログラム郵送有無のチェック
- ・ 今後の課題として発表会の告知方法を考えることにした。
例えば、松愛会ホームページで「新着情報」として告知、
松愛会会報の最終ページ「イベント情報」一覧に掲載、など
- ・ 打ち上げは「さつきの間」を予約済み（会費は¥4,000）

4月2日・3日の撮影会予定

- ・ 集合は2日寝屋川市駅南改札口に8:50

ただし、小笠原さんはJR京橋駅改札入口、谷さんと友人はJR大阪駅ホーム、田淵さんと天野さんは同乗し前日に車で出発。

- ・ 参加者は計11名（会員9名、谷さん友人1名、映像協会1名）
- ・ 宿泊は「交流館」 ・ 町の地図は当日、田淵さん入手
- ・ おみやげは3個（@2,000相当品）を準備（田淵さん）
- ・ 現地との交流用として映像作品を念のため持参する。

（竹田さん「七夕まつり」、天野さん「北野天満宮」、竹嶋「境港の妖怪」）

他団体との関連事項

- ・ 寝屋川市映像協会が5月下旬 - 6月上旬に撮影会を準備中、場所は「山田池公園」
- ・ 複数団体への入会のメリットについて紹介（一つ作品を作れば複数回見てもらえる）。

3. 作品映写

「湘南支部クラブ活動紹介」：9分 由井隆久様

「友愛懇談会」：7分 同

感想：「歩こう会」、「パソコン」、「太極拳」、「詩吟」、「カラオケ」と多岐にわたる支部のクラブ活動が楽しくわかりやすく表現されている。和気藹々とした雰囲気が伝わって来る。

とてもお一人で撮影・編集されていると思えない出来上がり。

「安珍からのメッセージ」：6分36秒 北大阪 堀さん

感想：モデルを清姫に仕立て上げての作品作りの発想は面白い。

発想が自由奔放であり今後の作品作りの参考になる。

「私の「無常感」と「白昼夢」」：10分 小笠原さん

出た意見：テロップの文字が見にくいところがある。文字に輪郭を入れるとかするとよい。白バックに白文字は見にくい。

最終の「企画・制作 小笠原」の表示は中央に寄せた方がいい。

「Edius Neo2編集実験」：4分41秒 小笠原さん

初めて編集してみた。勉強すべき点を教えていただくため各種編集を試みた

もの。

「花の寺 三室戸寺」: 7分 新井さん

「はす酒を楽しむ」: 7分 同

出た意見: 画面の切り替わり時に一瞬静止画 動画になって揺れるところがあって気になる。(音声オーバーレベルになっているのは新ナレーションテープで直す予定)

「京都東山 花灯路」: 6分 天野さん

出た意見: 音声改良確認、OK。

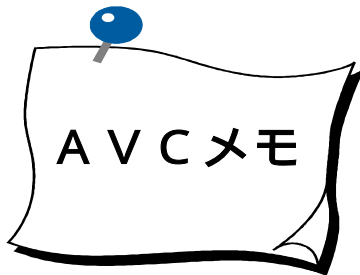
「忠烈祠 衛兵の交代」: 7分 竹田さん

出た意見: ハイビジョン映像でさすがに鮮明。(今日はフルハイビジョンモニター持ち込み、発表会当日の映写プレーヤーは竹田さんが用意)

以上、20日の作品発表会に向けて作品の完成度確認を完了しました。

4. 次回例会

- ・ 4月16日(金) 13:30 ~ 於: 市民活動センターこども室
- ・ ビデオカメラ担当: 石田さん



映像作品のお作法

竹田 幸男

例会などで、テープの再生を始めたとき、再生が始まるや否や突然タイトルが出てきたり、タイトルの途中から始まったり、極端なときはタイトルが出ないで(本人はタイトルを入れているが)映像が始まったりすることがあります。これはテープの巻き始めからヘッドまでの距離が、録画したカメラ(テープデッキ)と再生したカメラ(デッキ)とで、それぞれ異なるためだと考えられます。カメラは一般的にメカニズムが小さくテープの巻きはじめからテープがヘッドに当たる部分までの距離が短いのですが、テープデッキは構造上メカニズムを大きくできるのでテープの巻きはじめからテープがヘッドに当たる部分までの距離が長くなるのだろうと考えます。また、テープの巻き始めはテープにしわが多く、ブロックノイズなどが起きやすい部分です。

このようなことを防ぐためにテープの巻き始めは黒のクリップを5-10秒入れた後に作品の記録を始めるようにしたいものです。

また1本のテープにいくつもの作品が入っている場合があります。「頭が出てある所から映写して」などと言われますが、先のようにタイトルが中途半

端になったときなどに巻き戻しに手間取ったりします。手間を掛けて作った作品です。発表の際は1本のテープに1作品というのが、お行儀のいい作品の出し方でしょう。

作品発表で気になることがあります。作品の最後の映像がいつまでも終わらなかつたり、とつぜん「パッ」と消えたりする作品です。映写係はどこでテープを止めていいのかわかりません。やはり最後は黒のカラークリップを入れて作品が終わったことをはっきりさせた方がいいと思います。そのときは明るい映像からいきなり「黒」になるのではなく、フェードアウトにしてあげるのが目に優しいと思います。ついでに、作品が始まる時も黒（青）からいきなり映像に入るのではなく、フェードインにする方が目に優しいと思います。突然の明るさの変化で作品の迫力を示す、という意図がある場合は別ですが。

また、あなたは作品の映写時間をどのようにして測りますか。大阪アマチュア映像連盟で確認したことを私なりにまとめてみると、作品の始まる前の黒クリップからクレジットタイトルやタイトルのカラークリップに切り替わった時点と、作品のクレジットタイトルや映像が出始めた時点と、作品のBGMやナレーションが出始めた時点とのうち、最も早い時点を作品の開始時点とします。

作品の映像やエンディングクレジットや「終」などの文字またはそのバックのカラークリップが終わった時点と、作品の音声やBGMが終わった時点とのうち、最も遅い時点を作品の終了時点とします。この開始時点と終了時点の間の時間が作品の映写時間です。

クレジットタイトルの入れ方について考えましょう。クレジットタイトルとは、出演者（キャスト）、スタッフ、制作に関わった企業、団体などの名前を表示するもので、作品の始まる前（オープニングクレジット）、または終わった後（エンディングクレジット）、またはその両方に表示されます。大阪アマチュア映像連盟の映写会作品では作品の始まる前に「**映像」「**（人の名前）作品」などを入れ、終わったときは「終」「完」などで終わることが多いようです。映画などでは作品が終わった後、延々と制作に関わった人や企業の名前が流れます。一度やってみたいですね。ところがアマチュア作品では関係者が少ないので簡単に終わってしまいます。アマチュア作品はエンディングクレジットを省略して「終」「完」などと簡単に終わった方がいいようです。というのは、映画で拍手することはありませんが、アマチュアの発表会では拍手するのが慣例のようで、エンディングクレジットが長いと、拍手のタイミングが合わないように思います。